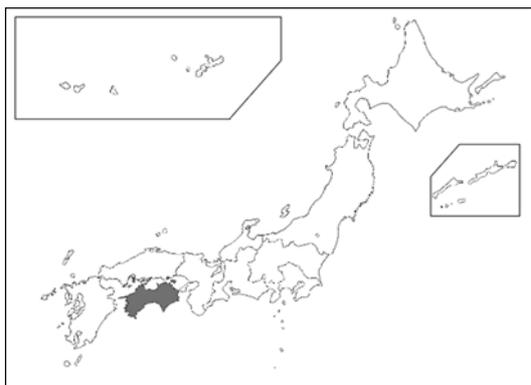


(9) 四国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鋳工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

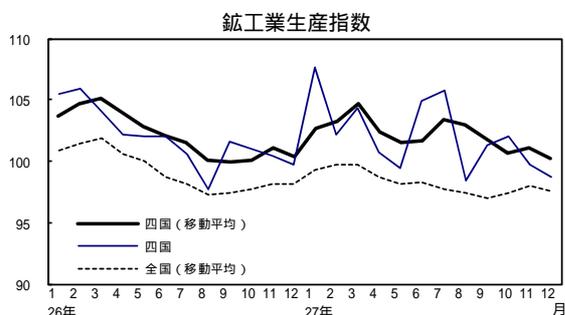
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 11 月)	今回 (平成 28 年 2 月)
景況判断	緩やかな回復基調	弱さがみられるものの、 <u>緩やかな回復基調</u>
生産	おおむね横ばい	弱含み
個人消費	持ち直しの動き	持ち直しの動きが続いているものの、 <u>足踏み</u>
住宅建設	大幅に増加	大幅に減少

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は弱含んでいる。

10～12月期には、化学は、定修や医薬品の生産計画の都合により減少した。電気機械は、スマートフォン向け電子部品等の低調から減少した。食料品は、冷凍調理食品等が弱含んでいることもあり減少した。はん用・生産用機械は、納期のタイミングにより減少した。非鉄金属は、電気金で設備修理があったこと等で減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
化学	22.9	0.6	3.8	3.6	17.4	1.9
電気機械	15.8	4.5	0.3	0.5	5.6	1.1
食料品	10.5	2.0	6.6	3.5	2.3	4.3
はん用・生産用機械	10.0	7.4	0.2	0.1	2.4	14.5
非鉄金属	8.0	7.5	0.6	3.7	4.0	0.2
鋳工業	100.0	0.1	1.6	0.8	2.3	1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

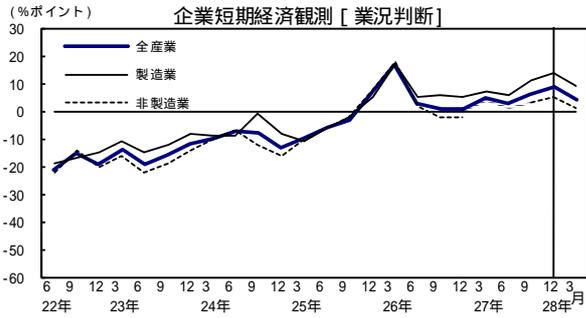
2. 10～12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

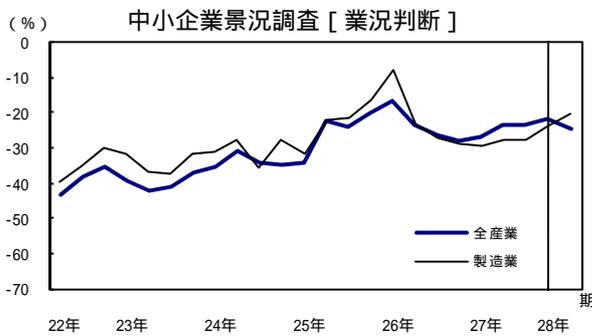
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

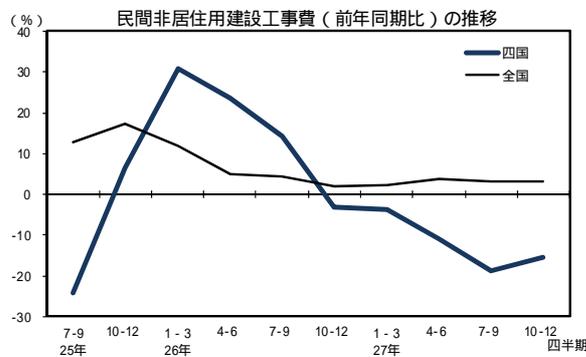


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「12月の繁忙期明けの1月という事もあり、物量が大幅に減少している。路線定期便では積載率が低下し、従来にも増して立寄り先が増えた(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績	27年度計画
全産業	26.8	1.7 (1.6)
製造業	63.0	2.4 (0.2)
非製造業	6.1	0.5 (4.3)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

(9) 四国

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.7%減、11月は同2.3%減、12月は同0.9%増となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、月後半の気温が高めに推移し、秋冬物衣料の動きが鈍く前年を下回ったものの、飲食料品は催事が堅調であったこと等から前年を上回った。11月は、気温の高い日が続く冬物衣料の動きが鈍かったことに加え、飲食料品は催事の減少や歳暮の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。12月は、気温の高い日が続き、コートなど冬物衣料の動きが鈍かったことに加え、飲食料品では歳暮の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。

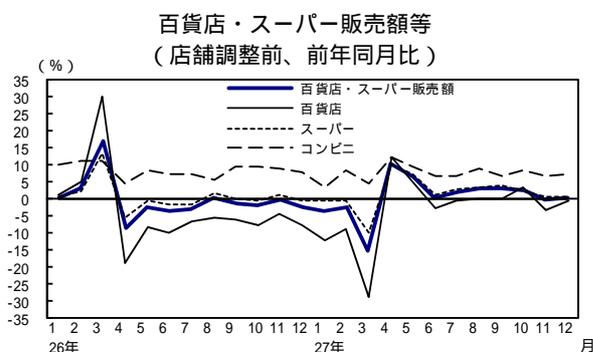
スーパーは、飲食料品では肉類の相場高に加え、総菜が好調であった等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、35.6となり前月より11.3ポイント低下した。

「暖冬や大寒波といった気象による影響が、売上悪化につながっている。それを考慮しても、高額品や化粧品などの動きもやや鈍化している (百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

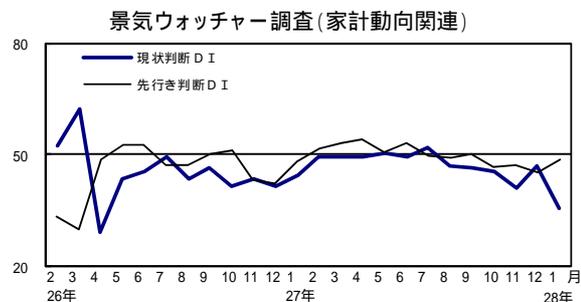
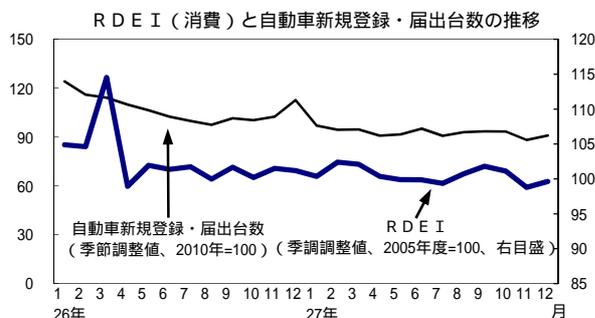
	27年10-12月	27年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.8	0.7	2.3	0.9
百貨店・スーパー(*2)	0.9	2.7	0.3	0.3
百貨店(*2)	0.4	3.7	3.4	0.7
スーパー(*2)	1.1	2.5	0.6	0.6
コンビニ(*2)	7.4	8.5	6.6	7.2
乗用車(*3)	13.4	8.0	13.0	18.4
(季節調整値)(*3)	1.7	0.1	5.6	3.1



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

